



G29/779

なんうとからいとます 想完成田信去小田多人的



B 34229

000782296

心上找題處民田信玄小田多物事 一風とおく、周八州のまそろれ除皮属とそでるるないれば風八数をかり、上枚種尾八数後くこともったいれば風八数をかり、上枚種尾八数後 すーき今のはれにみくあるひり一風東かくの とうでしていいりのはくから、武田伝玄を甲とうでしてしていい中川のはくから、武田伝玄を甲 うつに対しは気とわりり之一年の田家山 あすべきしのするでもあとえるる極強の大からり 大学などのであるというである。 

上智丁野武意下とうだとうと居住とう民康な きいかく皮膚の家るといの軍るちひそうなる はすときなすやかとないん。在中へかでとれて 土下程のりすとかそうねつりしてたちしか 鹿も佐玄も小田多な了四人民康心母をま 威を诸位民きのな柄とかはとくっても方でして かせるれちんは男ちといからりほんるく風 きぬりすべれなねないて死まるをすること 田名でくてくととなったからか物というりてはほせい きいのわればしくって、種院はまかくろういか 女々ろの見する人とのいいますからとは代のいくさい 代しむとくてで多りいかくか像家とほうしむ おいくの歌と対象子り。皮属は動しいさな種 子ひろうから相換三橋山く合教しるとうちか田多くて一公返くはよるくの人がありましただろう そうられたわせかりっともれとりうんてもな 心母かりん。後、甲が高級國の見頭人一大次 とれといち今の例いると、めくしくいで氏感の ゆりど甲があるするの人の地域としれまたは

成康村の极之海軍生作でであるところでは、「四國中」長人保。泉鎮之金。左門族はで大阪と 南京了水路的三即在城上小城かんが伝去小坊と落下小かとけかり、水水土三年の冬 どればは人るわかぞくれなし古人なりていれば甲 用近りは三城とれるしる柄かとしてた後 甲俊後であるかっとかい近風のかくろれ かられたというというというという てれるといれたといれたとう回も とかるとりておから合教し切勝たりく風を切 かそうむだろうだそれいかといれるとかか まるいのはのなんとといっているのはままない らせずをかりの氏をあるななかりの氏を八枚物 死氏鹿抬題かり任玄勝秋四代するよび後で次 は、食事了自帰し、廣気とくこの他風の大わ 可角作并对 えんご

きい見るとととくてあるよう人の教記 ひがったからの前手をのけた。思意たと我 と、は人い我们の中かり。我们许多のなりかり それは飲後年の早りのかけへのよしといるも 天下韓海上海りの後1月中上の数色移動 ではりとできまりゆりひつうろうの相か かっての民人ときかくとうりくの教園とという かしまるとれまれんでうか。佐女世の紀見と でとかん。後ろうころいれとすている れとねがいってうるで月近の雨かとわるせる あくというときまるいることも飲いる 7

金被を若しらなれかやっとい風歌なりと の世りからの飲れとうような心眼がりとうとう うべき事の盛経かとっていくろれではとん ずと教養せてんん事。宣人のそうととね 条の不可也的後の一かのことさの火まとんる とゆうたいのたれ门村盛吧。我们と孫りてる からんじ、礼世のりくい。世のそうなとすること ぐろうりいしいまとからというなりろう うただは後とるりてなおとけるでして 多一村工族河南司教村がつて小作しるといれ ろんさとおいき唇。まくの大歌したかっているととと あっつくしっきとせる他人いか事からしじょうん 然といいましています。ととうのちょうとのちょうとのあるとととう。 なんしょう えない 社と三の後山下了る、西老不了とて公事 と、成級と状山。盛経い面とそれて経過と教村 道、年之かれしんやこと越りの飲みいとま ふわりどる。を何いをてのを織のせんかりんから 方よりんやつうしところれ後しなんでも 盛紀が祖後の自我別の海湖。七代代了了多つ

るととうなくれたのかはおはるける柄と の国でうくくとようんや。城の秋ひ事。益からさと大原との成との城を入るならなる大百人のと そうつべき事から信玄一生に六次と後では なの合教し切勝した前と百名作八首と至いいの教がみあ三元の本がとりまたっている人一三人 もでくた。とるかりのなるとろうである るといくしというととは春のとうしぬし がされ代のわざれらとめい。と1は玄い近風の かきし、佛神のかくとうとの見かり そろうはって風をゆるとる大わととるはける自 からてなるとうりてきなううけとの意と そんうくというというべまれりはおるなと 我殿ととまりくんのでかと面よりつってん ふからいいっれつ他へまかいてる柄とり大い回る さするとうとうのはとくでいれていいかい うろうくし秋風とゆくろんれれかんが しのはあることではなっているとうたれなった らいてうころえまのするとかに伝去いるよ が指が地が - LINE WIN

十年世年版的と、省時是沒乃志了色 生ほや欲りまし、逆心かせてくりさ 信いしてしてるとうと、悪迷せつかりて大 て禁中へきてくしと切からかりかりていき 松又甲川はる教理とおくってるけられずいさ おかれが きもひうとうのからなくんかりと うしゃんだいをいてもってくとうら 号の大切の友信行基并了らているととこれのの質風」がいる人男のれがしるととした。 ちょうるやっとき信いないの質風」がいる人男のれがしった上から前に切事。出と教とした を行うえるうろとうで文信尾と出出しいいくととは微くて者といういちんだろ じの息本即義信と移る人後害と言教衛国と客務をいうを呼られるというという 即後おとう一般わきが例のろんさゆりか 不かりて三金の松をきでしむとある 以銀河 海河

一人はしの時代とれ換い記るりと又をふううとと あくいってまっないとしくどうとうく それといる時秋いを田のおく。天月山のでくたしま 敏势小三八的とう。四国と常し。引後を から信長の甲分八十八路八七後甲からくち 同うやとの情れりからり自言かのちくととと ふとれの三即年度とはかくもからりのと面 える。民政とならまんとるよいいうかとのいまからの る甲州人教的一次,肠松七种近去七大 家むとなる用といろいろれずりいかようと てみはそうとくたのあれから勝きりではしなり 教となる人とといるは天子十年の長信人 えと治り主要とろりきるかはすてとくしか 生でありたしてあるらいよるをきる れったできといをしりもなくるとい なるいかのとうともとどているからいり しると打ちのできとおいめけるん事と 百人性しているかけれての勝れを国とう 軍との勝利古奇中人為ろひしてすてでここ 5.5

きなる。その一大降し、文武与馬の通べきるったれるとうなる。それ二十大降しまるのかに ケ像というできるかがいまする二十一くれるというできるというできれば早ま寺る二十一 き、武勇也ときのれる数はよりとうで 幸しかなうなんいる状のなのないいま かられるか勝員と変するは一也ねるためれ そかくせんでわべていどといるこのはいれる民 きるとにないとなく方はいかくのはるく 高い。公食のをくる塩強の大わってはは代り あいれるゆくるるとどろれかくしてるからり みのいるないられるりったいは彼れんとき 飲のするとうととうなったりっとんとう とくかられるなんとれと必りのではな風のれときてんなれる減しないのはないないとかいくいっと かかんえとうと、秋はと来とあるるる 多いれとうととる事がいるちの他を事めた けんったとうべきとよく一節しれると きるりけんであるなないはなれるべしとう

とう八橋大井の夏風よろいっとよ即ほかがかの合教上勝利とうる事。我からいれどの とかかりかりたらというままといいくせり 意改之味上。天文十五年四月女日改川门 烈上秋の即後小也。此上左何の五方吃民公上校 なれる故はないの記録からあるべきいかのるか はあのくとしていれかうないれとくととうのたべ 降家の弓矢かりってきる国家はないかしる うくえのかというれるの民意のうちの数 すりぬ十代われていり、酒食のる方のは被友を 康第八五届し上板の歌遊のありまたとれて ほれなくれ世よるくととういかしられが氏感い なからの後も三方しかつでなるあり。動いわりの 老松が、胸田登しるできれ、敢明い下紀の回風家 のはそうようであるがうちてててから、送意 る方八氏病はないと上着者山近は骨内门姓 方とし上れとも過初と後戚ときとしてうい 飲の飲しとて、民康と合教一皮底村勝てる 即後れとれてすい。民馬工歌教をかりて、武州

お回とは国上寺後一路万年国東位友と るを別公川、ありに去いなる」などをより は同の成しい多くねとの云をまとうとる。歌。 そくろのそんしいからおうたちとるしてとちろ かいしなん大僧らつ友戚がしていとうかとい とでした。風十三日三徳山く七台をから民人の 点さい国名使者として寺場南たるである み万余務と年し後河へを数と信女はりとはる とはらしと中民席。民政父子月十二年三月中旬 なんなんらとでくてきる。ゆしたら、皮傷のなっと 不義信玄夫心かれるるとしてもろうな きないる方上れの四風と一方とねがい二次ちると ふなのほれどれとことためくしてなどろうど 風東消化のをきとるとくうちくきまのは

らきその民席後門、打の信玄神代ででくくく 安後河國中庸名言國寺三教格。产会心师该会心人。中州人子が以及民感、信玄子 雅あるく大合致かりです。数日と送る下し代去 七遍行し、同十八日。南京中北路は少女のはる で月歩八日。如陣とくりけてかしかんないとから 人数とおしまいいまですとうくうよくとを中ある ていてられずらたまもとれく。具体はんちる 泉などくはよりの城し人れとめとる。氏原文子 そうとなったととおい氏康へありまれば飲のと 氏原し切られには玄色はそろべしとりよられたなり 田原、海はせる後門大良いと随ち。届ますとなって 1とうり甲分のかりに会大人性大井とまする まである歌車との神教と砂麦をうしている 三松かりの三城りのお面とういるを直場へ大け 康七孩何かあり好神と必ず了痛るら風寺 年六月二月の甲門と打三後別和收遍路了陣五民 くれは強うて知きると笑いい田島へぬゆから してともれち焼きですしりがひとざりしからる 小红色

それる事

るばくらなったととい属のでくれてく 1一食甲奇色色的是あもちりを信意又出降 おけ田信玄とそろとろった玄白玉及女女の合歌 の機といれぬといわれていってる上町で野民益とべしとくおとそくを後かくうしていていま 下統了最佳よるいみる方上松の即後打一味し い田名でくてんとかと改意ないでいるん 軍と引奉しる動の成してとうと重けてる 伝去甲角と门十月二日小打る二味の加勢大

む合欲れいといめなの人ねなきる何をくれる はるまでというう首の数十年とうには 一ろくてお田をはる山角上野る。伊勢は中国扇とろくりくりかられるかられるかられるかられるかられるから 在了分切て出述的一般的軍也民康民改 日陰與子司兵房手大为寺猿河寺沿版城上然为了息意一法寺以中遇一为了世民 守るるはいが 大門とないててはと、伝去ゆさるの者酒名

な也勝れい天正之本。民政旗下かかうかり。甲 せりかくの氏鹿在下のゆきできく一味とかが けく切てなんとうとくじと。皮原国とつつ そろ大人也成然氏息了りてのでに言玄風をた 月八日言智意合致了党的小七人是全之 さらきをかる勝りとゆううっていると 饭中小人就共三十人村色な代去小路家 信玄和子多院处多了一些信去面上別一出馬 さとうなのないりうれりかいはめたれるの けきかなるのでで、正支の勇士とそうくかなり 太郎勝りまる。在登了十七遍的了了 とうな味方見とちしと小牌助る即日的 かべんしばとりいう版とてるましてる ろれるいかちりのよのありまい項のでは かろうとであり多数切てかればあらげき ーいるとくてくとくたが一分のそろうこ 相引のこうい三幅門下したま人れとめとかけてくせくてる十月六日の事からる なかり。種尾信玄国引送しの彼はし一味

大としいかと 軍い天正十八年」すていか二年小島 をかくべくを重といかりの回治し氏のかないませんとうが相換い回名の男子と ちと言んとの様かろうかもつるい田名町とね からうきしとうしとのいるのかっとるけるし 文之弘一是一。甲門底屋处于了了小国名 さです。りとうなくいろくれてくなりしときる く。信玄なれる腰とり。居更題尾しせまく。 のう人さのといろといれるで年九月十日を初 何中的了といる。題尾と伝玄合教わり。治ていい うちいる成のるといってを彼のうちいかくこ 十されで十とうなくのとれの屋気がけてなる 飲えしとうちいれくちしれるりの後とれど はとかくころかりと国府とりてえながしことか そをはりのる中のうちいかりは種尾いくしたり そろりとう大多いとうとうとう大きるの車 馬上もくになくこりうつったまりもさいがという ありとうであのうちいつとりてあるるかあり 小打かとうでらん甲川京首と一つされいるといい。 代まうちいりったり成八ケでもといいて人の城

ちとうかったるかりまえきくいうりくか回 る様子が多種尾信玄松園の自と成れる石山城であると公在の年春一月子を入りまる人はまでも ならくか打成で退むしてのれくが飛城でい な即程者次即程者とかとにはきましく大 あるようしいでしかんしかくしかっからたり 全ててくしくたかで一村のお。那部のる。 いて入る松子と人の大名物会了思り正式とき えるとかしどのは成成はととけのいめ しかしいとらいぬくゆうそうのぬし大名ね そらくかくうかにわるときいれてしているかない めとくれ。首尾不合のりさりくかく。他人のわらる ゆうかくいかかりかしととくべど。我をかく いてはなったていきいたま氏感のきんのなる するときりというませんからるとうへいろうの りましたくそくと一後のあるしてるりでしていってきてきてきてもせど一时き かりとや。海にしきとうくんかるとなけら 1せんとうかいようしてしまとうなるのでは るばいうきい田本へくろうくとべた。まいさかい

むんとうしたらい飲とかんでと上一人弱され まとの成形まれつ者でとるるでしてれるいり うねよりくないなの村と梅野していてもうた あしっとと内限かくの表版とれませつると からうして、民席やてそれ画をはることでも てるかんとそろけい城とせらるとまっなける じから国人が強しのにたるかってくのかしら うとずれ上る飲料の者しくみかうちかろ いと。もにろうちゃんを一旦の好とんる きるはとろうで、風をゆうくとろいきわのくろう とはなったとうというはの上いる個多くうしと きまでしたまれるとうでしたとめて入ると そ上はないるとしませる。配のとりなとん うるろうのからううしきといってるくとうろう の小城地でからしまったとうとったっともしてい こから、国八かりしのまとくゆりななは様 きとけてていというくい国東诸ら我力の上 しとゆうれえるときざるせる一次人 かくす

本即金松、江戸本即金長か、有好力者吸入 夏房門為以為以為自山次即全患可欲 美のひかいれれる相別る格山つ合成しょうち める過食へすべるような方のこくとくしから 風であるるはかるとのうなのでれいる。ま をうと引。三浦交義明と対かろかと然上が 小動物となけまとっきょけくなりいませるる ぬたのとしいことかくいろの形を見せている 歌」。後年と過き、園とんろ大わちうという 人はいくまれなの名大ねのかまれとえる で国八州の民士輝尾。信去山とくとせい民意 氏原の你息と感し、めるとかけらうのか で古たか日月の触をけべきえるかりたかく おないる意味十分展しのな多風を記入 のまさくくをいれても味が小性とう そのでくらのくきつくきが良みかりつらった ふるですっていていいかの者でを見ると ならしめでしてを後をきる免りていから 者ないくくうと地とうではきとんいると りもはんなりのおみるとくとこと

ゆらはきでんの歌といけくせらなしると 松人相模とす風る」の長先氏総相模と るき様なと大きなかられる事かい大名多り 皮部のわやすりもようからかったかているよ きくとあさく自用といるして事かり の根はとあるる中意であれのるありはる めのとうろうとうしてもってとっていい味家 奏ねってんとる物といくとたる風と学後 ようだんぜしけるう夫の歌えとうやっとい ときべんきるりでしるあわりりいとうい わってれとはきとれてとれたの回のをする き、大本はぜと、水でんべ、大臭めそんとと といくいまりる。たろは王を中の酒宴 日しスケービミンクラーフとましてるていると できまないというというころからからと き。英王のかいろうれるう。古後ははしとな しくととうなるあるようろうでせんとかりてい ふんしたの対のと切れのされるると後

代の色後かしありの佛神へがてもなべてなるとうなくとれんとなっていますがられたとうなくなるとれているというないというというないというというないというというというというというというというというというというという 小作家のラケケケーで、廣気と 月二なけっすりるいへかのだとめはする 安慰时代子園とはの民政氏車!でふれる 橋家野と焼石余年国八列と特益した ゆうという。必像、多型内はい国をこといる るってれかしるとものいかとないると里 れてうくみくからめいていみかりの男アろ 的他を多くない上が古村とろの里の百姓 かるうのかにとからとう事かりとってき 一人かっると称めくかりてんぬかんら をはいかいつかるくせてしかれての 口意の道出也るれば、我日女行記多合为の ○教男となしめようけっての事

造人の男もってきもしからいいろうどれると とううとうととなるといれまないではくない。 遊くしまくれていのからもの者」とう らまれ中かりが家の产とあっちへいた。強人よ ちてしというと男とかりのは事に会も とするらいいれるでは一人ようだけをす りけいです。村の者でいるとけれりかられ 知いけるようのいないでうりが見事している とかりを耳目をからると、るまのといこか アうけるろううなとればしたかせけんい とありるとというけばの家へおうくない 敗してるるとうしとなかけるる。は男女 ろう。成りなりの日中国なてをたね。美国しと るき初めの金まろうしきなかはん。耳目とかで はするこれはしろとがあるますしていせんと アケーの方面としてアクれっちのあるとかれ いしざでんわされるかはちりた。はなりたの。成

も他人の書か路はらまが人となるいあ 金したではなとうしてる文で名主百姓祭と村除してしたらねるら應三年のはる 成別式目から生香と客様しる形科の事。正人 いからしていたからろういれたようにしまれるは 道のまかの方もりくろいるもろののやものようい。 えかりとつでやきなりぬしずがずりの中からちく 方とるとし、地技とめてもうというると きるかりかけとやりべしいかにいいてしまて をまかられい出仕をありるういであったくん のは式やもれさど、首りあうか。展季でる 心科目むとうとていきであれてい他人名 うさか。三十多くではつさ料るまくなかの 者かりうけいからるからば人をものあい 男なりるかののかはい方大い家になっている 妻」をしておれれりとうくっていま そっ古大なあの西村のはようとてけていいい じを流しなりないとしているとうない えんえ フト

息がぞくかるるなかってるやとかけく。私 家とかとく焼火かったっつからるとかか そらずしとをからなれるよといけかりとく。 かりまてるるとの男とるとかっていしてから ねみかんきのうしても男をしかからるななかられている ひようでうろういねさとれた像像すべるのう て食からろうかりかろうるがあとあれる きたとうとまるいったいっためんかくかっとこ とうれいとすとめていまさりろれかみかられて おとべーごろうるる我三年いちの男子しれれるようかられるとれるからいちょうかられるれるからいちょうなかられるとれる ひろうさくい城してくしてるとうと で小五年越五小五月をごうくうりる海海 せんでうり」」」と過趣二丁云色脏。三丁云起她。 からうやかんされたでなかしてれるとであって そ人とかろうではとるてありのおと同禮かの るかているのとれるとしまりかり

き、とうことからなったる。腹地となってる 養重常陰の風」とて、好陣の砌場井と こわさましくいしてまたまとうととことなっか 4のかりを病也とってもというから風味りや ひそうな動けるめのそれでもつ用すと名す 恵しかくこの理りかりの神ののかしまったってもっていたりっていまっていたとうのとはいまの 女の智色をはないがうの用車のてくりとまる 了男のなむ女のカー生もうとくたとろれて 平金せどっきのあったいなりして とうる。体はのらなとうろうと天の死のに 何なずりていていてのる都はわりまるそ天 かかりといれるとれることから人でて男女の なとしとうれるうの遊へしていちんしてれた。 というととくいるかくろくありかまれのう ○ 百姓をるけをそうとう

おいうんですとはしゃととはいいいろうないのののでとくれくちりぞさかりいというない 了味力をでしまっているとうとうなりとき うち あのるちとろてるととうというできしてととう とうのは里地行の庫でる一般は至下 そしるすべきを必めいりますべるのく るかからてはしてきてくってくんればのかり 勢とうての这里一种村一門也を切りませる味 歌とうかから、まのかく。作りるころ多 付きからはまのととは三三万人かれるこかで して作りるころの石程的ような後とってり 面性と気をうるかっきなとわてとからうべ 軍中小のはとお垂で有気が外事をとうえ 民族以了一三年了人的の有五事八年也百姓 きなのだかくかまく。天後と、それから井の 一いそれえど。飲とい百食人は捕きる首でもと 石姓三人は物の首とろっと内一人はとわけるる 人多りったははらとことんべくんさというない の意からきてするからうのてようと 飲ねなみりわるできてうな味がわる優れ のこかりわ

るかれいところくなどうかっていかろうくのは 一挺ななってくれのをはる味方の中へてで そうとそれが一方のふると一種にうまとれる歌とつ かがろううれるおの角立しれかりいろうく さんとろうしまくうかはるかしていてき 後の成状しくくるはな作り教室者強の個心 さかの有気ていといる氏酸でるのはとりてき はるとううる。おきようる飲くそういは るりつべきを地とき。ねくならっくの百姓とれ行の とけずとこととていからして変どわてと るべくとかくろうとしるるてのなとかと 井のでとびるしいれてるとなく。他のこちとける がようとを記るの数美工石理とといると からう日子の岩井兴庫助と名はへしって上気 生名と可いおかとあり。女八大庫助したり下ぎょう。 れる百余対極着の内しくてのまのる名とえ 事。周分気の剛思人當十の物。だべまで 祖を为る人人と後よい歌とれる外看行れ 一。岩井のでの飲み村の到。岩井の石性味方の

ていかられているとはまっていかりているというというというなはまっていまってはあかれけとる 月引いりのう。唇とうとあり。同性少くド わらい血とはけど、育なりととからり石姓 うるな果核しかいい除家後代の良立也な 今て神かからい女の思奏しい者 あ年他 百姓くのことのつろういったちのかかなる後よ でうってれずしてきなかりの飲とつさしせいい まがけはのです。きからはと歌しなりあくらう らんい。歌したの面目をうべきかっき上うの着と どわなしろうとうでも何石はしとしせる そとのかりるませとるからいるできる 小学権之助とおくれるようなといろしいた かってうろうないなんなとれていってれずしおけるだ 万姓とわけしいかとりまっち見かしている つうれつまる数ケいのも見うりまけいまじたって しかとういとりの民政学を軍中したて かりん。武勇とうるすんないの変にしめ このなともかくべくどよりあやうとく 法率のわさかりなりるというくとれる行 そうびろ

からの。肝氣はさる者也。今日西世とお付はない ときろう田島とれたかえるつっき上去井 えるないないといういというないというにというないというになっているが 果後的以放飲の私対小品庫」なるんで、強 おおりけたのはれての首教傷の自然の動切 小果後しめ、軍中八面月となどへるおやとうと 者のようなないとながしろうないろうないとは相首 不了百姓人和本人。助活一般と対外の摩利 からな気ですとる風勝風と送してる 飲しかの唯雄とないるは、他風とうの飲しね それて、周八川山殿とうなの東西ありるからとうとうというたとからろうの民席、文武のもくからとうと の内しというまのちぬこ。起りしはしいます 神明佛地の真直了一时分以也は百姓けるだ わまてきっかり 小道上二四村全限と诸やし、勃奏与了了事。 えたいどざれたよれのかるではあもかあと そういっきゃくさけるんしかくすめと の小除氏家和奇の事

りれ相る信門後ろうてであるれれるれるているがあるといれるではありくる者りしる者りしる者りとる者りとる者りとるれるであるといれるではようないとうないとうないとうないとうないとうないとうないとうないとうない このようらはいろうなはいればのなくと集る 我何心命の去かり。民東百角の自然と。京都へ ころもしているはいろはってとる よぞくに道憲院教会点とったくれんいればいろ からうてれるりなくくもとうかんとくます いれのなのれとしてとうなどしればくって いとかくとけしきしかけるなれるいん 大家季でかれるいはれるつているこれのい をとくしがあっくとしてはべきかかさ るく神ゆるりまち、城るれるかかせる も甲三即季隆やけぞうかかりょう なきかららわりべるしからすい。彼くしと 格经的了了城上那日の西路上去了。桃名冰麦から水多山多年上去と後十五八大八五次 アろれだいくからしか。武をの風に住る

かりるうを作の清めし、成れるとうとうないとうとうないとうないとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとうとうないとう みるとうとましいとうなればるいかまからいとうとうとうなっているればるいからいますから 百町とはくろとうと。過れれずのろとするおめるでくらととく。上近の風料和田てこ 一次へうのるれたくなりしるかのき を行うるかなどの男子されるのは悪いよくう 神明佛陀の推復よるがかと、佛神と後級神明佛陀の推復よるがあるがある。大きないちょうからというというないと、大きないちょうから大きないというというというというというというというというというというというという きお女の合教と場列とうの事のあつのと 対面し、水からけるときまとうけっ食とういま くるがかれる後也ではしかりの皮膚い希代の大 さいたろうれかかのくまする神とくとれな がくるし、かぞく氏意文 見きむ。を扱のようるです。そくろうらい くがあの上しきするととないしたかので 清寺清社と建立せり。元父氏怨心天文九年

ままうけてわするく牧わったりてる後の者 二月中井の頂の大島井と宮田秋かりとい子庙 為思山人樓文色 B 民康月十五萬年外月十 格演之例りおりてもあるかはあるの目初の他羅庄と七日とくからからはましているのはない てきたとしてんかに表れるほろまつの名がてきないとしままなりきべいかってくる服せせと 合作とれば国家女都からき上氏家は他国ようなかるとしまりのはようななるに動のはよりのたと るべいなくてかしの民席うるとうないという かくとうしからしき大き井天心年中すん かるとろんが人かりるが人内かるどうん 者からもっとういとおくとろって人内 せじるとうともとうとはとういうとう とととなってくるれきかったしていか良 では人かしけっかれかりしかまといい とは感動してれるり、愛国しる取とうしと

らいと国かるくしい際家しくとしていた国と といるとうくといれてくるとう るれるいと風くのうきのてなてとめるる ふね人般の場というしてるとっているととなっているのないとうとなってるとのれとうとなってるとのれとうとな 勝利とこれ風と全く寺後一路でん はるか他男小後國東へ下向一。军人分人小国家了多级兴部少旗と以名とい三人公子教公方松了不少了多次的大学了了一个人的人的人们的人们是不像广导使群体中手大和人一种是 やくていまけりまでというしくなくといれていれる 傷と、妻のなとなて天下とゆめたいいられべい田 雅年とていいとうさくせまであり 程」軍連してる诸ゆいくさの行と見付いい 他思かりに数の通うくるらはとるかって也民家 くかられるわらいるとはまりとうでと れ自をかくらかしているしまれしの気を感像 衛作も夏と有る石姓と得と過しない。そう 3 きを

からってそくわきでというとよとってきかか とうったりはははいとうりのの東中かとて しのなんとでいかとまでしとはとううとうは かくはくれていてするかいし、我へというる かくてきがあばてめってうちのかと日かりは けらいがくそとかくないなきょうてくとう かいきあくの例外の時刊えん事とかりてくし をいていれなの合教」利とえてあとからかりか と。民席いくるないくさ無をあるかくいわるとの れる诸人記せうないとやさっているといると お代まける後ろ名人と、天下していてかんせる をされるとうなるを変いませのなくいするよう くもわらってからといろうかはい飲世を生まれて 少うをからるさしょうとんとういうない たまでといれましてとというまかしいいは ふうしいかんとれるいいかろろうりの他国生 の人名ではのかりもめといいま なると、風が経過したりそうとおろせり 出う上ですとうよくもわるストがってとこのひ

思信を失れてる者でれりるできるのと まなりになるうとうきっちまして されるいきつまりますいれば後とすちる いといろんとおからずする。極を励してい あり、我知人公ろういりもす 更飲世たま ゆううかかったかりつれとと後の名人で天 小二表目ようとう息三十年。思なとうと う一つしたりっというかとうんるない なと一まうなようないでもですられてる 水りその気世かってういべるからいれ ながらかってやけったけれれあくから れとうそのかりまる道とうのをやいれると ひろうりが教とうかりるをとうかりて かしかはしくろうんるあとりの過むする いっかりないとからいこうからさき いさえだるかりしのいけっているころしつうかり なりることのしてきというかくなかかからう りというなんと再とそうでくてんとしつる から一番やくでやとねがいりかったとうまとれ 八个比比大

ままりにきくしむりいる歌している。まし とれりいきつまりまりいれば後とする 小二表月了なとみ息三十年。思なとうと いといてんどものでする。極る励してい かっちりかないとうかりて うしつもかしきいくかとうんしずいし ると一まうひそうろれでもひりちゅうさ 水りその気世かっとうこのべるからいれ 曲うかかりかりったとと後の名人と天 やえどうないりまる道とうでは息ともつれとしているというというという ながあってやけったけれれあくから されてありしのいけのではっこくしつうかり からう一番できるとそういしたったとをえれ れるころいるしかというあくなからからる かしかによううつんるあとりの過むまで うっといきからいううかろさき りという見んと再とそなってるとしつる 人生记述 三十五

像をうくだき、生力の変化しめにし、情俗像をうくだき、は住物大陰神師とりて、名をかから、変化をはり場かをあり早ますい 1のするくととでありるあのかとかりごろうと そうかまってわとうくかくろういかいろれ をあったってのいい事かっ世上しまっといる るていりないの国の死に多次たのなの日を ねる思いまろうなはしているにより。作けれれるというがあるとはなのなととるてはと異せらる 小田名を成一分成改多数成了了一个成就是 かって里人であるが、新人もとうるな 家の母具と祈里なりごとき、我的你的 竹门安る海角とかろれ、教教寺で号し皇 そうかときているいろうとという後 れる他のよるかりなってかったとという。 うせけっちの記る二世の道を私からいり 養八郎。保生与三郎のでんのまま、とい田子 の人ででは一相模小田紀小峰家の強さ 小人也是大 いたか

ととれりとのはいちのはいのれるより きましるとととというとうというできるというないないないとうとうとういうとうとういうにもつうの にもりているるとくれればくとすのとくないというてもっているというているというとくと笑いるの そうまういかしさぞとなる内にな するれいないともくてわりかとのいますかと 師かかとうのやくして見なしていかれる 我もの家はましていくの気のところ神代 る何ととくせんいろれる地をとっている の後親世となるは後とれるれいではま でつかりゃとくを姿くてのりい様か何と 安房かられるとは好好とかりやくりから ならそれのすらかがると思て神で云字 の外りけりて申ると考さい流色をを りるととくなりの中はまでい神るとき てるときりっているとうじょ へんとしまた

て刺りいろが曲とうかれると変と多せまい神愛からる脚殿上人となりはしまった とはりしつとさの事」ないりつの数数と らってれと後年くんけってはちゃくの東と と日のとふうろしぬしろいねるとちな るけぞとといるよであくらのみかしな 而是这位的学们一位都的教旨在一 をかりきいからのみとぞくていいいのち 奥城としるかんのでくわらいるくして くいとり。民政は変とする病気せん ていためでしくれらかけを他ととかくろ 今になったとうとはあくりとはしる 出する気しこめる曲とかりとかいさめ 人かするおはなの句面とには一とかりさ い人で記したい

神ろうな細とうるとは儒ろのずろうと ありっていれているりののかしのはひとか 言句の内でも思さと除さるとかいろうしかはもぬをかく。年久一くそとせんうし ろうらいなるというのせらんべるでんとれるなないろうにいかめせらんべるでんというととんな てるながあろうられたっととくりくせとにる。佛道よくとはう。悟るとつかり 後し切とろうかくのあとろうぞくのをする 古くしまれいそんではとうとととうるる いした。気をなるまる事力はいくい 多りっかっちらうるろろくのかをからうって からしとうそれない神代からう りんからの教家ろろうあ事されからて事い ろうれできてる意のろととうでと のできなかり 2

はかさらるるといろのはのうというとと さし、というろうな。ほいりりしの力教也。 双意数の三個子のちつるでとっきとい天子 ると知事所要となったでいるはないのう 事とうたいとうれいの名人也被スともいの と、地上司でる。とよ。個二核。三教ところしい てしての次申しで十天子のれわりっててる個 るとろの序被をつくてみとそりと大 り里。程序とういい的の後るとうないと 曲いかの物はしてでかくいるとなるをなが 題の多次はあいってた過期一人のと也勝去の 一達朝からくをいる陽麦の曲とくとうとと 竹のだるないととうかれるかってくうない そうと他きらいりという。到して方者れかられない はくなる情祖可からし なるこんと付かまとれのさんとしる侵者を下 かれつでするうていかりとまれなりの他牙が きり、きょうりてんとまとますのるへと。 さと。月ごうかうちてれてついとしてな いからいかい

る一分了る朝去て他才後と多りっそのことのことの ひうなりやりる小は平氏改文成の大将のとしきして、国東治園でんかったったる はかい。織田上経ち信長。京孙へせりよう。三國八州上城とうない。近人かりとはしいるの 倫とさくい平とさくてく一里のかし、数の躍り の智恵ろうかとちしとし、古人もいうのか世れ けかとあり。まとないてあってとしいりま きる必長い島産の教をしかってんできるからいるはようととれて島飲の教をもう とうののないとというのは見のなくとうくうないとう となるはと思うたとれいってやかんやとるり 人もよう人もまれなる一般力ではかして 馬にしるよう。我们の中国では成のに梅からなの そくとうで、黄帝つみとのりしても着はとれ 急さいよいとやすりとうりの内は日津とか らしいらんろんずんのかり行くかってるようか しいるとかくと、十二年とりてすころでを見る の欲んかとからいと事 としたなりまだって PS

的七年弱一之方教明之各部人物一十二天下 ふ教芸と上国面をなりとくべたなりな からう。氏改れているやとかとうまかれ 信氏を返信とするの旨義明之り侵者と 首を切りまったは1年でくろの首佛飲と かとって面月子の時しりかかてしてき し民政会を礼後出いる野性とうとくくを わり。路上り後ととと野はできる言上は一 建立了了一分学、王成乃徒争了七次了皇近春年中。傅教大师七次之十代祖武天以来了了。此本乃人。在世久一少美的人 たるととして教的女人。守在大台では大多は 八百余年してくれる。は山とりつらじくる かってとめるようというではなっていいいと " AND What

そうん事神ののからったかしまっていたのはあるは極連かろうしていたをといると 別かやうしとれてしてくるり、ようく道 のあるというの見るすれるとかんぞしるとれるだったったの見るの見いまでかんがしているとうにはるに表がなっているとうの国家とき をきとうで、民政いるしくもう馬の家 か作うとおいてき切しっくまれかい。まつ かれ者がかりをちていいましたが 食かのとするとうないといくれるにうたいかりしているというないがったいったいろうでいていているというというないのでいていていとれるとう ろれたこくしなさとめとりのほうでは数山雪は佛阁でとくくをはていること たうして、文宣王の做をもひるてれるないととうとにおいかなりを事から、勇者のみ いるそうの神のななう異感しましてたろう うっまのからとみとれるとととより のかんなんとう。年まな月十三日。 事からで置し、二十のなんとまなて教が いとからまとし

级 中川勝れる国民年旗下了からで上成れる後人。日民年の文品田名地人と版と えとぬるり。家者と次国まかないなど そかんなりは風の歌を玄人通い天正元 題尾の意子と成て、上秋三郎ある景 高き年山道民政、東海のお終とりく 多る同本で手るな信義とれる」で題 はまはつまとおう天下のかとってしくまれてならんとととという。養ととうと、体 こうれったという人のの智日向ちょうきとうというというないかくかられいはとく」 家房你的我也一味——一年家民人主之的 秋氏はさくうの変物うっとった。歌人肉」 で手の多種尾的死と。いえるるとを 致後甲州的教子了少、民政上的近月七時 の外海とから戦後八氏政を外。三郎 りんご幸からずるさななる不か同

か雑せきれといるれかり。い病い看婆 高 とき食真をつこまは病いとうかりくう 教さい王をとれてれるとかましいなれたんごく 秋かい十ろのはしそれりのまれりいろう ういっての歌るいろうか他のなられるしき 歌名なと流きりの切の思葉のかと質欲 務い療はみしるかど、後し満苦きしてん食 るできあるれなけれるもろでくれき事を そうくうて独切。彼が是他とううな るちろれてうと言と。摩町上位了。 きんかれてはくくちにはいぬきたかそうとかれた。とつころくかんちいとうなっているという なくできていているとせく生涯をするとなくすていているというないではいいくとうしい はれてはなんというととかりしかはあい せんでいうしきという人ものにといるようのかはしているしているしているしているというというというというというというというといいのはない たさるでは城モールはいれていれ後りそれ きるるかすらしかろべきもらいのかりかか 自命等の情報の間は流んさい強いい

苦と歌き三世生了一方の公と成て三男気生気 道師と成ろいまと成て気をとれる天下のまわ の院明星だとうは消法実相のたとはるかせの でんる今三年の月。雅行若行の切然了上一月首 とぬていまいしたろうはんないのうとうない の山しくするからてるととをして三逢の左でんかう かとれています。今人あるまる者な 理槃の名しまんしていますようとろう 事るれかなのは名しるとましまれの大海と後の 小除不代記老才六次 - Sinder

